



ゴム張り手袋で 日本一!

アトム株式会社
(広島県竹原市忠海東町)
平 雄一郎 社長



「喜んで使ってくれるところを見るのが楽しみなんですよ」と笑顔で語る平社長。

手袋の甲や掌にゴムを貼ったゴム張り手袋では、国内シェアナンバーワンの企業です。主に作業用手袋・長靴の製造をしています。どの商品も実際に使う人たちから話を聞き、どのような使い方をしているかを見て、新製品の開発に活かしています。

ゴム張り手袋は こうして生まれた

「ゴムを貼ったらとっても喜んでくれたそうです」。平社長は、ゴム張り手袋が誕生した経緯を笑顔で語りました。平社長の祖父の家業は備後緋の織元。海軍に在籍しながら縫製業を始め、戦後、紡績業に事業を転換。紡いだ糸で丈夫なナイロン靴下を作り始めました。

順調なスタートでしたが、売れ行きが落ちる夏でも靴下が売れている地域があることに気づきました。どうしてなのかを探るため、足を運びました。その地域では、田んぼに捨てられたごみや瓶の破片だけがをやる人が多く、けがをしないように、靴下を履いて農作業をしていたのです。そして、「ナイロン靴下は丈夫だけど、やはり破れてしまう。運動靴の底を靴下に貼れないか」と要望され



本社の玄関前にはゴム張り手袋の自動販売機を設置しています。手袋は6種類で、飲料水とともに販売しています。

たのです。さっそく、ゴムを靴下の底に貼って、試作品を届けると、「破れにくくなった」とすごく喜ばれたそうです。

当時から軍手も作っており、「靴下だけでなく、軍手にもゴムを貼ってよ」との声が寄せられたのが、ゴム張り手袋の始まりと言います。

現場を知って、改良を重ねる

ゴム張り手袋は、当初、ウニの採取作業を想定していましたが、ウニのトゲが刺さって使い物に

ならなかったそうです。見本を送っても、なかなか買ってもらえない時期が続き、何度も改良を続け、少しずつ買ってくれるところが出てきました。

九州では、焼きあがった陶器を熱いうちに動かす仕事で使われていました。それまで使っていた分厚い手袋は重く、作業をするうちに握力もなくなっていくますが、薄く粘りのあるゴムを貼った手袋は滑らずにしっかりとつかむことができ、通気性もあるため、長時間の作業が可能となったとのこと。その後、土木建築の作業場でも使われるようになりました。

現場の声から生まれた製品の一つが、たためる長靴です。重さはペットボトル1本分と同じ。「くるくるたんでバッグに入れて持ち歩ける」と評判を集めているそうです。

また、30年以上にわたって、防弾チョッキにも使われる繊維を使った手袋の製造も続けています。廃棄物処理や刃物を扱うような作業で使用します。平社長は「なかには、神経を損傷してしまうような大けがを負ってしまうケースもあります。『安全で使いやすい商品』が当社のものでづくりのキーワードです」と話します。

「初めて」へのチャレンジ

アトムが取り扱う製品は使いやすいさ、フィット感、安全性など、使う人のことを第一に考えて作られたものです。専門スタッフが集結した天然ゴム研究所では、天然ゴムや合成ゴムなどの配合技術や新素材開発を行っています。とりわけ、使いやすいさ、使いごこちを決定づける金型の設計や改良には力を入れています。

また、機能だけでなく、デザインにもこだわりがあります。「業



種類によって色を使い分けられており、バリエーション豊か。



Company profile

アトム株式会社
 【創業】1924年
 【住所】広島県竹原市忠海東町4丁目2番1号
 【ホームページ】www.atom-glove.co.jp



平社長ともみじ銀行竹原支店 山根秀実支店長。「平社長の豊かな発想と現場主義、地元を愛する姿勢にいつも勉強させていただいています」

界内でも使われていないような色の組み合わせでいつも手袋や長靴を作っています。これからは、私たちが持っている技術で、こんなことができるんだ！と人々が驚くようなことをやっていきたいですね」と平社長は力強く語りました。